



# 株式会社 ピーエーエス

車いすの設計ノウハウを生かした「P!NTO CHAIR」を、2016年4月にイタリア展示会へ出展。確実な手応えを追い風に2018年3月イタリアに製造販売拠点を設立。さらにフランスなどへと販売を拡大中

展開国・地域 2017年 イタリア

企業情報 所在地: 大阪府箕面市 従業員数: 25名(社員15名 パート10名)  
設立: 1999年12月 URL: <http://www.pas21.com>

事業内容 福祉用具の製造販売及び健康雑貨、家具の製造販売



1 ミラノデザインウィークの期間限定ショップの様子(2019年4月)

3 German Design Award 2019 受賞式

4 「P!NTO CHAIR」シリーズに採用される3次元立体構造システム(Ethreeem)



## 「P!NTO CHAIR」シリーズを世界で試したい

会社設立以来20年、車いすなどの福祉機器の生産で培ってきた設計ノウハウを応用して、5年前より日本で3次元立体構造システムを採用した「P!NTO CHAIR」の販売を開始しました。セラピストの経験を生かした「座るだけで体がピンと!」なる「P!NTO CHAIR」シリーズが日本市場で人気商品として成功を収めた体験が、世界にも普及したいという気持ちを芽生えさせました。このような思いの背中を押してくれたのが、日ごろからお付き合いがあった日本の「仲間」です。その「仲間」を通じて知り合ったのが、現在イタリア法人で責任者を務めている桂久美氏でした。現地を熟知する彼女とともに、2016年4月にミラノサローネに出展しました。その展示会で「P!NTO CHAIR」への反響は、想像を超えるものでした。この原体験がイタリアで現地法人設立を決心させるきっかけでした。以来、4年連続でイタリア、フランスで展示会に出展し続けました。このような活動から築いてきた人的ネットワークを通じて、フランス、ドイツ、スウェーデンへと販売支援をしてくれる「仲間」が増えてきています。

## German Design Awardを受賞しても難しい欧州のビジネス

2016年4月の展示会出展後、すぐにジェトロ「新輸出大国コンソーシアム」の専門家支援に申し込み、採択されました。同年秋よりジェトロ専門家と欧州市場へ進出するための課題整理を実施しました。専門家の知見は、人材面で不利な弊社にとって羅針盤となりました。2017年春イタリア現地法人を登記し、2018年には商品の生産をイタリア現地生産に移管しました。日本と欧州との距離の遠さにコスト力が見合わず、体力が持たなくなったことが原因です。現地生産を始めることでイタリアのデザイナーとの出会いも増えました。このように地道な活動をしている最中、2019年German Design Awardを受賞するという弊社従業員にとって光栄な機会にも恵まれました。しかし、先行投資の時期はそろそろ終わりにしたいと思っています。3年間で得た仲間やビジネスパートナーを有効に活用した、新しいビジネスモデルをただ今模索しているところです。

## 現地を熟知する人と出会えるかが鍵

最近、他企業から進出のご相談をいただくことがあります。行動を起こされる前に、市場調査や試作品製作など綿密に準備をされていると感じます。弊社は、「やってみて修正すれば良い」という発想で出発しました。どちらが良いという話ではなく、どちらの方法でも最優先ですべきことは、進出先の現地事情を熟知する人と結びつくことです。弊社は、日本の人気ロングセラー商品を代表商品としてイタリア市場から投入しました。欧州は、その多様性ゆえに商品開発に大きく影響を与えることを、実体験を通して認識できました。代表商品の「P!NTO CHAIR」だけに拘る必要もないと思っています。今は販売単価の高い商品を、イタリアデザイナーのシモーネ・ミケーリ氏と共同開発しているところです。彼の空間デザイナーとしての商品開発力とネットワーク力に期待しています。



専務取締役

野村 寿子 氏

専門家からのポイント



課題整理のため、ピーエーエスと一緒に、同社が持っていた「膨大な顧客データ」を徹底的に再分析することから始めました。その分析にあたっては「選択と集中」をキーワードに、テレビ会議を駆使しながら、現地スタッフを交えてざっくりばらんな雰囲気でも議論が進められました。その上でイタリア、フランスでのFS実施に臨んだので、日本と現地一体感を持って仮説検証を進め、その戦略にチームとして手応えをつかむことができました。生産・販売の役割が現地にシフトしている中、その時培った一体感が、以降の活動を順調に進めているポイントだと思っています。